

チャンス到来

金沢美術工芸大学学長 研修所講師 久世 建二氏



豊かな時代に豊かなアートが生まれると思われがちだ。

しかし、美術、工芸、建築や都市の構築など数々の歴史遺産を概観するとき見

えてくるものがある。意外や激動の時代の大きな変革の後に生まれた多くの遺物が、夫々の時代の形相を如実に写し取って、後世に長期間影響力を持続する事に気付く。

日本に例をとれば鎌倉時代の武士の台頭による現実的で力強い写実的な美術の出現。室町時代の末期に起こった応仁の乱から安土桃山時代の戦国時代を生き抜いた武士や、海外にまで雄飛した町衆たちの美意識は、大航海時代の影響を受けて美術・工芸に多大な痕跡を残した。美濃を中心に作られた織部や志野は桃山を代表するやきものであり、江戸初期に忽然と現われ忽然と消えた古九谷も、五彩による絵画的表現は大陸の様式を踏襲しながらも、大航海時代の南蛮貿易によりもたらされたヨーロッパの表現を取り入れた国際感覚溢れるオリジナルな芸術であった。織部も古九谷も当時は前代未聞のアバングアルドだったのである。

文化の正体は知の継承と言われる。世界の様々な地域の特色ある知恵やもの作りの伝統が継承されて文化となる。しかし単純に継承するだけでは何れは廃れて消える。なにもものにも属さないオリジナルなものの創作となれば、穏やかな継承のみでは生まれそうに無い。内なる変革以上に外からの刺激的な知の導入が必要になる。異文化や異質の知が交差するところにハイブリッドな文化や知恵が生まれる。今日本は世界のどの国も経験したことの無い事態に陥っているように見える。もの作りの世界もいまこそピンチをチャンスに出来る好機ととらえたい。

研修生に期待すること

研修所名誉講師 陶芸家 宮川 哲爾氏



昭和五十九年、県立九谷焼技術研修所が開設され、私は講師として実務指導と日本陶磁史・文様構成の授業を担当してきました。

研修生・職員オールキャスト2012です



入学して基礎学習三ヵ月後、新入生は九谷焼の技術を学ぶために古九谷写しをはじめます。県立美術館や県九谷焼美術館の蔵品の中から大皿を選び、約二ヶ月をかけて一人一点を仕上げ薪窯で焼きあげます。古九谷の絵の線描から絵具、彩色の原料等、その時代から変わらぬ材料を使い青手古九谷から五彩まで根本的に指導したもので、上絵具は私が調合しました。

それは単に研修生たちに本物と寸分違わぬものを写させるというのではなく、描いては消すことを何度も繰り返す墨あてや呉須描きの過程で、古九谷を造った先人の線描の確かさ、自由な動き、思いがけない文様の取り合わせ、そして古九谷独特の深い精神を身体で体感して行く時間なのです。仕上がった作品は高台裏に制作者の名前を入れ、研修所に保管されています。研修所に来た人達の中には廊下の飾棚に展示されているこれらの作品を見て、古九谷と見間違いする人があります。

私は一貫して過去から受け継がれてきた技法、文様、色彩などがデザインの基本の骨組となって今日に活かされる授業をめざしてきました。研修生に伝えたいことは、美術館博物館などで、より多くの本物を見る事。現代の生活では、あふれる情報の中で何でも簡単に画像等で見る事が出来ませんが、やはり良き物、本物を実際に目で見る事が大切だと思います。その上で、現代の創作文様を活かし、古九谷から伝わった強く深い線描と上絵の彩釉で表現した作品を造って欲しいという事です。

【平成25年度研修生募集中！】

これからの九谷焼を担う、意欲のある方の紹介・仲介をお願いします。

古九谷写しの授業風景

本科 (2年制)
研究科 (1年制)
実習科 (週1日)

詳細は研修所まで
お問合わせください。



元気で活躍している卒業生・OB！

「陶芸という仕事」

第10期生 吉岡 将式さん



私が陶芸を仕事にして、何か有名な賞やコンペ等の成果も無く20年近くになります。

研修所を卒業し、実務に携われる妙泉陶房でお世話になり、その後独立を試みましたが、成形の経験を積める機会を頂けたので九谷青窯にもお世話になりました。

それぞれ違った特性の仕事場での実務経験は、現在に活かされていると思いますが、出会った親方や泰さんの仕事に対する姿勢が、実務経験より大きな糧になっていると実感し始めています。

独立し販売店と取り引きを始め、品物を制作し販売するという事は、品物が一番である事は勿論、仕事相手との対話・遣り取りが品物と同じくらい大事だと思います。問屋さんの話の中で、WINWINという単語を覚えました。私が仕事を始めた頃には景気が良いとは言えない、右肩下がりの数字を見聞きしながら仕事をしてきました。しかし作り手も大変な時は販売店や消費者も大変なのではないかと思っています。魅力のある品物を不景気だからこそ販売店や消費者は作り手以上に求めていると思います。WINWINの考え方だと自分の利益も大事ですが、取り引き先の販売店や消費者の利益をより考えます。

これからも仕事で関わった方々から得た事を基に、出来る限り自分の思い描く理想に近づけるように仕事に励みたいと思います。



干支飾皿 辰

「第35回伝統九谷焼工芸展大賞を受賞して」

第16期生 山近 泰さん



この度は、第35回伝統九谷焼工芸展に於いて大賞を頂き、誠に有難うございました。

私は25歳で九谷焼の仕事に就き、その年に九谷焼技術研修所の実務者コースに入れさせて頂きました。当時は、まさか作家を目指すとは夢にも思っていませんでした。しかし卒業後、何か毎日の仕事に物足りなさを感じ、この展覧会に挑戦しました。その時は結果よりも、一番下手でもいいから挑戦し続ける事を目指しました。取り敢えず3年、次は5年、ではあと10年というように、出品し続ける事を守り、やってきました。

転機になったのは、3年前に象を描き始め、それまでの花鳥風月から、自分の本当に描きたいモチーフにこだわらだした頃かと思っています。その頃、個展をするチャンスにも恵まれ、批判や批評を直にお客様と接することから聞きながら、ひたすら作り続けました。先生方からのご指導もあり、そういった全ての積み重ねが、今回受賞させていただいた象の作品に反映されてきたのだろうか、と思います。

象は家族や仲間を大切に作る動物として知られ、吉田屋窯の時代には普賢菩薩の乗る象が描かれています。自分の好きなモチーフを追うことで、今まで作り続ける事ができたのかもしれない。そういう意味では、自分の熱中できる対象を見つけられたと事が、大変幸運でした。

今後も初心を忘れることなく、また九谷焼に携わる者として誇りと信念を持って頑張っていきたいと思っています。



四方皿 象

県伝統産業振興室からのご案内

「売れる商品企画書を作る！」

伝統産業振興室では、伝統産業の作り手に対し様々な支援のメニューを用意しておりますが、今回は**伝統産業商品提案力育成事業**をご紹介します。

これまで作ることに専念し、マーケットへの意識が希薄だった作り手

の商品開発力、販路開拓力を高めるプログラムです。

基礎コースでは、作り手の特徴を踏まえた新商品のアイデア展開と市場性を見据えた商品企画書を作ることを目標とし、実践コースでは、県内外の専門家と協力して商品企画書に磨きをかけ、商品開発を行います。秋頃には、セレクトショップ・雑貨店、

建築内装関係者など伝統工芸関係のバイヤーが多数集まる東京の国際見本市に出展します。詳しくは、石川県のホームページを開き、しごと・産業メニューから経営支援/助成制度をご覧ください。

九谷焼産地・企業は研修所に期待しています

【連合会の活動と皆様へのお願い】

石川県九谷陶磁器商工業協同組合連合会

理事長 伊野 正満さん



我が国の経済は、リーマンショックや欧州不安の拡大により、まれに見る株安や円高に見舞われています。九谷業界も不況から回復できず、早急な業界活性化への努力が必要です。

当連合会では、皆様のご協力を得ながら、伝統九谷焼工芸展の開催、鉛害問題、商標問題、石川伝統工芸フェアへの参加、伝統工芸士の登録等、数多くの事業を遂行しています。

特に、鉛害問題では、平成21年8月からISO6486-2が実施されました。これは従来の基準値より、はるかに厳しいものです。耐酸絵具を使用し温度管理をしっかりとすれば大丈夫との結論を得ていますが、無鉛絵具の使用をお勧めいたします。一人一人が安全に対する意識をしっかりと持ち、九谷は安全であると認めて頂けるよう努力しましょう。皆様の意識一つで九谷焼の今後が変わります。

もう一つ皆様へお願いですが、組合事業に理解をいただきたい。九谷焼業界は350年の伝統があり、組合員一人一人、販売する人や作る人達の毎日の努力の上に成り立っています。

皆さんを育てるため、県、市、業界が一丸となりサポートをしていきます。組合事業の大切さを理解され、是非九谷焼業界の一員となり組合事業に参加されますようお願いいたします。

組合加入等については、連合会や、各組合へお問い合わせください。皆様とともに、業界繁栄に向けて頑張りましょう。

【研修生の受け入れにあたって】

(株)錦山窯代表 吉田 幸央さん



九谷塾による新ライフスタイル事業・錦山窯で参加した伝統工芸商品提案力育成事業・伝統工芸イノベーター養成ユニット・それから連合会50周年記念事業の取り回し等、ここ4～5年実に多くの事をこの九谷業界で学ばせて頂きました。その後、自らの活動の経験を様々な場所で話すという機会を与えられたのです。そんな時いつも脳裏に浮かんできたのは、九谷焼の新しい姿を次々と提示していく九谷焼技術研修所のイメージです。

あと数年で研修所も30周年を迎えることとなります。大きな時代の変化とともに研修所も時代の要請に応えるべく大きく舵をきらなければなりません。

カリキュラムや講師陣の見直しだけではなく、九谷焼業界との関係も新しく構築していかなければならないでしょう。また、研修生もさらに真剣にそして積極的に自分自身と現実との関係を見つめていくことを要求されています。

最近私の周りには、この厳しい時代に適応しようとする強い意思と夢を持った若い人々が何人も現れています。私は、この厳しい現実がこれからの九谷業界を支える素晴らしい人材を育て上げるのではないかと思います。そして、九谷焼技術研修所にはその中核となってほしいのです。

我が社では今年一人の優秀な研修生を迎え入れました。彼女がこれからどのように育っていくのでしょうか。楽しみであり、また私自身大きな責任を感じています。

【研修所とともに】

山本長左窯 山本 長左さん

研修所とも永いおつき合いになりました。卒業生の採用も15人を超えたように思います。原稿を書きながら、それぞれの顔が浮かびます。研修生を弟子として迎えるたび、毎回毎回新たな気持ちで一緒に仕事できたことを嬉しく思っております。

私のところは、将来作家として独立したい人を3、4年かけて基本となる正確さと仕事のスピードを中心に教えています。そのかわりに仕事を手伝ってもらっています。皆がんばり屋ばかりでした。これからもそうだと確信できます。「佳きものをつくりたい」という思いがまじめな姿勢を生んでいると思います。良き陶芸家になるよういつも願っています。

研修所とは別に支援工房九谷ができてよかったと思います。勉強から独立の流れができました。OBも増え、いろいろな情報はいってくるようです。九谷の中に「核」が一つできたように思います。個々がますます精進して大きく羽ばたくことを期待しております。



研修所からのご案内・企画の紹介

その1 オープンキャンパスの開催のご案内

日 時：平成24年8月25日 10:00～16:00
内 容：絵付け・ロクロの実習体験や、研修所OBによる絵付け・ロクロの実演、上絵薪窯の焼成見学、茶室での抹茶のおもてなし（有料）など、イベントマップを見ながら散策し楽しんでいただけます。興味ある方にご紹介ください。

その2 特別講演のご案内 「見聞 世界の磁都景德鎮について」

今回は景德鎮陶磁学院で教鞭をとられ様々な交流活動をされ活躍されている二十歩教授から現在の中国陶磁事情の講演をしていただきます。どなたでもご参加いただけます。

講 師：景德鎮陶磁学院
客員教授 二十歩 文雄 氏
日 時：平成24年7月25日(水) 午後2時～4時30分
(講演 2時間 質疑応答 30分)
場 所：石川県立九谷焼技術研修所 2F 視聴覚室

その3 九谷茶碗まつり・ 陶芸村まつり出展者の募集！

毎年、5月の九谷茶碗まつり、11月の陶芸村まつりに合わせ、支援工房九谷中庭のスペースに、現役生・OBが出店・出品し、まつりの賑わいに一役買っています。



積極的に参加いただき販売されることを期待します。希望の方は、早めに工房管理室まで申し出てください。(☎ 0761-57-3340)

その4 「Gallery 彩」での企画展示会を募集中

時 期：九谷茶碗まつり及び陶芸村まつり期間中を含む前後2～3週間
場 所：Gallery 彩
費 用：800円×日数、DM費用など
応募方法：5月九谷茶碗祭りは1月末、11月陶芸村まつりは8月末を応募締め切りとし、平成27年度迄予約可能です。
なお、今年度の陶芸村まつりの企画展示は予定が入っています。

そ の 他：企画展示会期間中以外の期間で、個展、グループ展を希望される方は、研修所までお問い合わせください。

【編集後記】

関係の皆様のご協力のもと、第5号を予定どおり発行できました。ここに紙面を借りまして、ご執筆いただいた皆様に厚くお礼申し上げます。

その5 ホームページ リニューアルオープン!!

4月5日に支援工房九谷のホームページが、装いも新たにリニューアルし、予約状況も見やすくなりました。是非ご覧ください。

<http://www.sienkobo-kutani.jp/>

ホームページ内の「展示会情報」では、皆様の個展等の開催情報を掲載しています。DMなどを届けていただきましたら、ご紹介いたします。

◇◇◇◇◇ シリーズお隣・近所さん ◇◇◇◇◇

石川県九谷焼美術館と九谷焼

石川県九谷焼美術館 副館長 中矢 進一さん

加賀市は、九谷焼発祥の街です。今から約360年前、大聖寺藩祖前田利治の創意により領内九谷村にて誕生しました。古九谷を焼成した九谷



九谷焼美術館外観

古窯は、50年ほどの稼働ののち、廃窯となりました。約百年後、金沢の春日山窯を端緒に、加賀の国内で九谷焼再興の気運が高まり、文政7年(1824)かつての九谷古窯跡に、大聖寺城下の豪商吉田屋伝右衛門の手によって九谷窯が再興され、古い九谷焼を髣髴とさせる作品を制作しました。この時より、江戸前期の九谷焼を古九谷、古九谷焼と呼ぶようになったようです。その後山代に移窯し、飯田屋の名で親しまれている赤絵九谷の宮本屋窯、金欄手の名手永楽和全を京より招聘した藩窯九谷本窯へと受け継がれ明治を迎えます。

九谷焼の伝統画風の六様式中、古九谷、吉田屋、飯田屋、永楽の四様式を確立させた地こそ旧大聖寺藩、いまの加賀市なのです。

当館は市内大聖寺町の市街地に建っていますが、藩祖の菩提寺実性院、飯田屋八郎右衛門が眠る蓮光寺、吉田屋代々の墓がある久法寺等の寺社が連なる山ノ下寺院群に隣接しています。そうした歴史的風致地区の雰囲気になじむ赤瓦葺きで、前庭でもある古九谷の杜公園のなかに佇むように当館があります。古九谷、吉田屋などの九谷焼の魂が宿る大聖寺の町へそして開館十周年を迎えた当館へぜひ一度お立ち寄り下さい。

〒922-0861 加賀市大聖寺地方町1-10-13
TEL 0761-72-7466
<http://www.kutani-mus.jp>

「研修所通信NO.5」

発行：平成24年7月
編集：石川県立九谷焼技術研修所
能美市泉台町南2番地
TEL 0761-57-3340
FAX 0761-57-3342

<http://www.pref.ishikawa.jp/kutanike/>

印刷：鶴川印刷株式会社

